

# 令和3年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 「研究発信の日」

## 【主題】

「知的障がい教育の指導と評価の一体化」

～「主体的な学び」に向かう児童生徒の育成を目指した授業づくり～



## 研究主題

# 「知的障がい教育の指導と評価の一体化」

～「主体的な学び」に向かう児童生徒の育成を目指した授業づくり～

## 研究の目的

# 「主体的な学び」に向かう児童生徒の育成

## 学校研究の方法

- (1) これまでの学校研究での成果や課題を踏まえ、新学習指導要領に示されている方向性や各教科等の目標を踏まえて、「主体的な学び」に向かう児童生徒の姿を検討し共通理解を図る。
- (2) 指導と評価の一体化を目指し、児童生徒の実態や発達段階に応じた目標設定や評価を検討し児童生徒が「主体的な学び」に向かうような授業づくりに取り組む。
- (3) 各学部で授業実践を積み重ね児童生徒の「主体的な学び」を確認しながら授業改善を行う。

# 2 研究の方法

## 「主体的な学び」

「学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、**見通しを持って**強く取り組み、自己の学習活動を**振り返って次につなげる。**」



・教師と一緒に学習の目標  
や活動を決める。(目標)



・教師と一緒に学習の振り返り  
をする。(評価)



「主体的な学び」に向かう  
児童生徒の育成

# 令和3年度の取り組み

## 2 研究の目的・方法

「主体的な学び」

「学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、**見通しを持って強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる。**」

- ・教師と一緒に学習の目標や活動を決める。
- ・教師と一緒に学習の振り返り
- ・自己評価をする。



「主体的な学び」に向かう  
児童生徒の育成



## 2 本年度の取組み

①各学部において各教科での目標設定や**現状と課題の確認**を行う。

②児童生徒の生活年齢や発達段階にあった、**自己評価**の方法について実践をする。実践後、目標設定や評価・改善について各学部で協議・検討する。

## 2 本年度の取組み

①各学部において各教科等の目標設定や現状の把握と課題の確認を行う。(文献・研修・授業研究)

- ・児童生徒がどの程度、目標設定や学習評価に関わっているか。
- ・どのようにしたら、目標設定や評価に児童生徒が自ら行えるかを協議し、授業づくりを行うこと。

## 各学部研究

生活単元学習

小学部研究

「みんなで楽しめるクリスマス会にしよう」

中学部研究

作業学習「豆菊の組立て」

高等部研究

作業学習「校内委託作業」

# 令和3年度の小学部

## 1 研究の目的

小学部研究

### 【協議】

「学習評価とは」「主体的な学びに向かう児童を育てるとは」

#### (1) 学習評価について

- ⇒ 児童にとって「自分の成長を実感する」、「学習に対する意欲を高める」
- ⇒ 評価することが目的ではない、評価することでよりよい生活(学習)へ



#### (2) 「主体的な学び」に向かうためには

- ⇒ 興味関心・目的意識・見通し・最後まで・次への期待 等  
(わかった・できた・楽しかった・がんばった  
・○○のために・またやりたい・次は○○がしたい…)
- ⇒ 児童による目標設定… 自分からする、自ら学ぶ、生活にいかす
- ⇒ 学習の振り返り… 達成状況の理解、自分で判断する、工夫・解決する



30

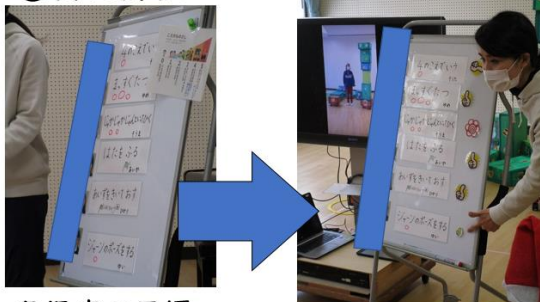
## 2 研究の方法

小学部研究

### 【授業研究】

#### (1) 授業の展開、支援について

##### ③ 自己評価



各児童の目標

動画を見て自己評価

(選んだカードを目標の横に貼る)



できた: 丸・小Good  
よくできた: 花丸・大Good

37

## 2 研究の方法

小学部研究

### 【授業研究】

#### (1) 実践(生活単元学習)について

- 実施: 11月下旬~12月中旬 (全12時間)
- 単元名: みんなで楽しめるクリスマス会にしよう
- 参加者: 小学部5~6年生 計6名
- 内容: 小学部クリスマス会のレクリエーション決め、準備レクリエーションの進行(係活動)の練習、当日の進行
- 目標: ①レクリエーションの係活動や道具準備ができる  
②友達や教員と一緒に、係活動やレクリエーションを決める  
③高学年の役割を果たせるように、準備や練習に取り組む  
④自分ががんばること等(進行等での目標)を決める



33

## 3 次年度

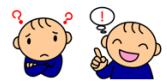
小学部研究

### 【小学部研究のまとめ】

「小学部段階における、児童による目標設定と自己評価に焦点をあてた授業づくり」

#### (1) 小学部段階での目標設定や自己評価

- 児童が考えやすいような選択肢(目標・評価)を提示  
→児童に合わせて対話形式、中・低学年の場合の検討
- 教員の評価と児童の自己評価(児童の思い)の違いへの対応
  - 十分にはできていないが、「できた」
  - 十分にできているが、「できていない」
- 視覚的な支援での振り返り  
→動画(画像)の使用、目標の掲示等は有効  
→即時フィードバックも必要、T2・友達からの評価も効果的
- 目標選択・授業動画は効果的であるが、時間・機器操作が必要  
→展開の時間配分、単元内で時間をかける時数の検討



39

# 令和3年度の中学部

## 1 研究の目的

中学部研究

見通しを持って学びながら、自らを振り返り、主体的に学ぼうとする生徒の育成



### 【本年度の目標】

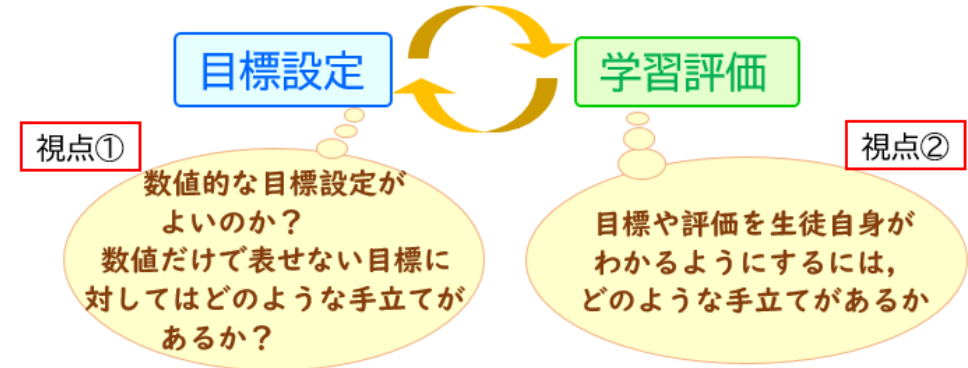
生徒の実態に合う、目標設定や評価の方法を模索、検討する。

41

## 2 研究の方法 協議・授業検討会

中学部研究

### (1) 実践における課題<協議・授業検討会より>



43

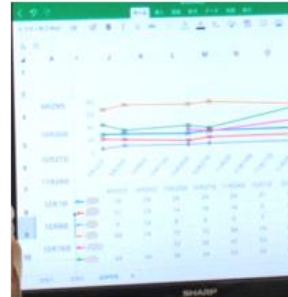
## 2 研究の方法

授業研究

中学部研究

### 【目標や評価を生徒自身がわかるようにする手立て】

生徒と教員で話し合った出来高(数値)目標と態度面の目標



出来高の変化(グラフ)

49

## 3 次年度に向けて

中学部研究

### 目標や評価基準を検討する



目標設定と評価の手立てに視点をおいた授業づくり

52

# 令和3年度の高等部

## 1 研究の目的

高等部研究

### 高等部研究の目的

卒業後の生活に主体的に向き合い、自ら学び続けることができる生徒の育成

### 令和3年度 高等部研究の目標

自己理解を深め、自ら学び続けることができる生徒の育成

54

## 2 研究の方法 (1) 現状の把握

高等部研究

### 2) 事例シートより得られた現状の傾向と課題

#### ○個人目標の設定について

- 傾向  
(知的障がいの程度)  
軽度…前回の授業の評価を基にして設定する。  
中度…選択肢から選ぶ。  
重度…目標提示をする。
- 課題  
・目標の妥当性の検討が必要である。  
・教員が、評価のしにくい態度目標等を設定してしまう。  
・目標をすべて可視化することが困難である。  
・障がいの程度により設定しにくさがある。

#### ○自己評価について

- 傾向  
・生徒自身は、ほぼ全ての事例で「できた」という評価であった。  
・教員と生徒の評価には相違がある。
- 課題  
・評価基準の設定が必要である。  
・信頼性の検討が必要である。(自己評価が正しくできているか)  
・適切なタイミングでの自己評価が必要である。

57

## 2 研究の方法 (2) 授業研究

高等部研究

### 2) 本時の展開 ※参考資料2「作業日誌」

#### <本時の展開>

#### <学習活動>

導入

- ・身支度、作業準備
- ・作業の全体目標の確認
- ・作業内容の確認
- ・個人目標の設定

展開

- ・委託作業

振り返り

- ・作業報告
- ・自己評価
- ・友達からの評価
- ・次時の個人目標の設定

個人目標の振り返り (学習活動シート)	
授業日誌	個人目標の設定状況 (達成率)
授業日誌	個人目標の設定状況 (達成率)
授業日誌	個人目標の設定状況 (達成率)
授業日誌	個人目標の設定状況 (達成率)
授業日誌	個人目標の設定状況 (達成率)
授業日誌	個人目標の設定状況 (達成率)
授業日誌	個人目標の設定状況 (達成率)
授業日誌	個人目標の設定状況 (達成率)
授業日誌	個人目標の設定状況 (達成率)
授業日誌	個人目標の設定状況 (達成率)

59

## 2 研究の方法 (2) 授業研究

高等部研究

### 3) 結果と課題【研究協議より】

#### ○結果

- ・自己評価を活かした個人目標の設定が定着してきた。
- ・作業日誌を導入することで、活動時の様子を具体的に思い出すことができた。
- ・他者評価(作業依頼の教員からの評価)をされることで、作業に対する学習意欲の向上が期待される。

#### ○課題

- ・個人目標の評価基準を明確にする必要がある。
- ・教員の適切な評価が必要である。



61



# 令和3年度の成果・課題

## 次年度に向けて〈成果〉

### 児童生徒の変容

- ・授業のはじめに目標の選択や提示する事で、児童生徒が活動への意欲の高まりがみられた。
- ・児童生徒が目標設定や評価（自己評価）することで、自ら考えて評価しようとする姿が見られた。
- ・児童生徒同士が評価を伝え合う事は、自己理解に繋がった。

### 教員の学び

- ・評価や振り返りをすることで、児童生徒の「次への学び」に繋がった。
- ・教員間で実践における評価の手立てを共有することができた。
- ・教員から適切（正確）な評価を繰り返し伝えることで、児童生徒の自己理解に繋がることがわかった。

## 次年度に向けて

### 〈次年度〉

- ・本年度の授業研究における課題を踏まえ、「主体的な学び」に向かう児童生徒の育成を目指した授業改善を行う。
- ・小中高の12年間を見通した指導と評価の一体化が図れるよう学校研究を進めていく。

## 次年度に向けて〈課題〉

- ・児童生徒の発達段階に応じた目標設定の仕方や、具体的な個人目標設定が必要である。
- ・児童生徒の自己理解のためのフィードバックの方法を検討する必要がある。
- ・児童生徒自身が「できた」「わかった」と実感できるような手立ての視点をおいた授業づくりが必要である。
- ・数値で表せない目標を評価するには、評価基準を検討したり、教員間で共通理解したりする必要がある。